

【 マタイの福音書 】

20:28 人の子が、仕えられるためではなく仕えるために、また多くの人のための贖いの代価として、自分のいのちを与えるために来た*のと、同じようにしなさい**。」 *直訳「来たように」 **「しなさい」は補足

【 ローマ人への手紙 】

5:10 敵であった私たちが、御子の死によって神と和解させていただいたのなら、和解させていただいた私たちが、御子のいのちによって救われるのは、なおいっそう確かなことです。

【 ヨハネの福音書 】

12:31 今、この世に対するさばきが行われ、今、この世を支配する者が追い出されます。

* 特に断りがない限り、新改訳2017より使用

====

イエスの死がもたらすもの

- 1.罪人を赦し、裁きから解放するため マタ20:28、マコ10:45、1テモ2:6、
- 2.モーセの律法の要求が全うされた 使15:10~11、ロマ3:21~22
- 3.神と和解させた。ロマ5:10~11
- 4.この世の支配者を裁く ヨハ12:31、コロ2:14~15
- 5.天にあるものがきよめられた。ロマ8:21~23
- 6.イスラエルの民族的救いの条件 エレ31:31~34、ロマ11:25~29
- 7.メシア的王国が成就する条件 黙5:8~14



「 イエスの公生涯 最後の一週間② 」

| イースターを覚えて-2 ヨハネの福音書 12:24他 小野寺 望 牧師

【 ヨハネの福音書 12章 】

24まことに、まことに、あなたがたに言います。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままです。しかし、死ぬなら、豊かに実を結びます。

25自分のいのちを愛する者はそれを失い、この世で自分のいのちを憎む者は、それを保って永遠のいのちに至ります。

26わたしに仕えるというのなら、その人はわたしについて来なさい。わたしがいるところに、わたしに仕える者もいることとなります。わたしに仕えるなら、父はその人を重んじてくださいます。

13:1 さて、過越しの祭りの前のこと、イエスは、この世を去って父のみもとに行く、ご自分の時が来たことを知っておられた。そして、世にいるご自分の者たちを愛してきたイエスは、彼らを最後*まで愛された。*あるいは「極みまで」

10:18 だれも、わたしからいのちを取りません。わたしが自分からいのちを捨てるのです。わたしには、それを捨てる権威があり、再び得る権威があります。わたしはこの命令を、わたしの父から受けたのです。」

(4ページへ続く)



◆はじめに：イエスの復活に先立ち、受難（十字架の死）を学ぶ

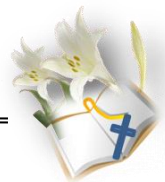
1. イエスの公生涯の最後の1週間

(1) イエスの公生涯（後半）に目を止め、その教えと死の本質を考える。

◆メッセージのアウトライン紹介とゴール

| イエスの死がもたらすもの

*このメッセージは、イエスの受難の意味について学ぶものである。



I 十字架へのカウントダウン②（2日前～当日）

1. ニサンの月の13日（紀元30年4月5日・水）

(1) 油注ぎの日

① 昨日の多忙な出来事（指導者たちとの論争、弟子訓練）を終えて、ベタニヤに帰ると、日没を過ぎニサンの月の13日（水）を迎えていた。

② マリヤの信仰と油注ぎ（ナルドの香油）

*マリヤの行為はイエスに関する予定（葬り→復活）を理解に基づくものである。

*イエスの傍らでみことばを聞き、理解を深め、イエスの必要に答える弟子となった。

③ ユダの詭弁と偽りの習慣

*ユダは弟子集団の金を預かっていたが、陰で共有の財布から横領していた。

*「貧しい人々を養える」という思いはなく、マリヤを非難するための詭弁である。

*イエスを見切り、祭司たちにイエスを引き渡す交渉するきっかけだろう。

(2) 弟子たちとの休息 ～水曜日の記事はなく、恐らくベタニヤにとどまった？

① 大祭司たちは神の小羊を、過越しのいけにえとして買い取った。

② ユダは銀貨30枚（奴隷ひとりが死んだときの金額）でイエスを売った。

2. ニサンの月の14日（紀元30年4月6日・木）

(1) 小羊が屠られる日（屠るのは午後3時以降）

① 一般の人々は夜（日没を経て15日）の食事で食べる。

*普段厳粛な神殿も、この日ばかりは血なまぐさい屠殺場へと変わる。

② イエス一行は、ベタニヤを出発し、昼間の内にエルサレムに向かっただろう。

*オリーブ山や神殿周辺は、相当の混雑（100万人以上の巡礼者）だった。

3. ニサンの月の15日（紀元30年4月7日・金）

(1) 過越しの食事（最後の晩餐）

① 部屋の確保：ペテロとヨハネのみに指示を出す。ユダの耳に入れないため。

*この時期、エルサレムに宿泊部屋を確保するのは通常は特権階級である。

② 食事の作法（セデル）：種入れないパン、ぶどう酒、カルパス（野菜）、マロール（苦菜）

ハロセット（りんご、ナッツ、はちみつ、シナモンを混ぜた練り物）

*席順：①ヨハネ（主賓）、②イエス（主人）、③イスカリオテのユダ・・・⑬ペテロ

③ 第一（感謝）の杯と祈り、儀式的洗い（「主人が」「足を洗う」点は習慣と異なる）

④ 第二（裁き）の杯とカルパス、アフィコーメンの儀式：イエスがユダを促す

⑤ 第三（贖い）の杯とイエスによる新しい契約 エレミヤ書

⑥ 第四（賛美）の杯とイエスの預言、ペテロの告白

(2) 告別のメッセージ：「場所を備えに行く」「もう一人の助け主」

(3) グッセマネの園：猛烈に苦しむイエスと、無知な弟子たち

① 全人類の罪を負う＝罪人として死ぬ＝父子の神の断絶の犠牲の大きさに気付いた。

② また、サタンはイエスを十字架から遠ざけようと働きかけただろう。

(4) 逮捕：イエスの行動を知っているイスカリオテのユダによる扇動

① カヤパは翌朝の過越しの食事に備え、側近のマルコスを送り出した。

*ピラトに話を付け、600人の歩兵隊を派遣させた（暴動対策）

② イエスに促されたイスカリオテのユダが訴追人（私人訴追）として裁判の準備を急遽進めた（「イエスはすべての企みを見通している」という焦り）

③ ユダ、マルコス、祭司長や長老といった議員たち、宮の守衛、ローマ兵がいた。

(5) 裁判：① アンナスの予備尋問（アントニア要塞）→イエスは黙秘 ヨハ18章

② ユダヤ議会による宗教裁判（カヤパの官邸）

→夜明け前の招集、夜明け後に再度招集（ルカ22：66～71）

「それは、わたしです」という言葉により、目論見通り冒とく罪に定めた。

③ 政治裁判（アントニア要塞）：当時、ローマの判決なしに死刑執行できない。

*ローマ法では冒とく罪では死刑に値しないので、反逆罪で死刑にしようとした。

*ローマの裁判を起こす際必要な訴追人（ユダ）が自殺してしまう。

*ピラトは法律に従い、裁判を拒否する⇔指導者たちはイエスを死刑にしたい。

ガリラヤを統治するヘロデ・アンティパスの官邸へ。しかし返される。

*囚人釈放の習慣：イエスでなく、バラバが釈放された。

*むち打ち後も収まらない民衆の怒号、ピラトはあきらめた。

*十字架の判決（現在のヴィア・ドロローサ第1ステーション）

(6) 十字架刑：ゴルゴダ（刑場の意味。現在の聖墳墓教会）

*イエスの十字架上での七言

(7) イエスの死と埋葬：受難の終わりと復活への序曲

◆まとめ：イエスの死がもたらすもの

1. イエスの公生涯から：

① キリストは自発的な愛によって行動された。ヨハ13：1、ヘブ10：7

② キリストは父なる神が用意した過越しの子羊。ヨハ10：18、使2：23

2. 「地に落ちた一粒の麦」

① イエスの死は、単なる“人間の変革”ではない。

② イエスに従うものは、永遠のいのちによる「新生」の土台である。